

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 5月27日更新

事務事業名		鍼灸費助成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	安武 祐次
	施策	15	健康づくりの推進				所属課	健康づくり推進課	担当者名	坂井 修
	基本事業	43	病気になる生活習慣の確立				所属班	国保年金班	(内線)	2164
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	合志市国民健康保険はり・きゅう施術利用規則 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果		
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・広報誌にて周知し、一世帯あたり年間60枚を限度とし、申請に基づき交付する事業・合志市指定施術所のみ対象となり、1回当たり1,000円を補助する。・保健事業の一つとして、新市発足時から（旧町時代2町とも実施）・平成20年度より後期高齢者医療制度が発足した事に伴い、国民健康保険から後期高齢者医療制度に移行された分、国保からの負担が減った。
【業務の流れ】	・申請に来られたら、過去の交付実績や納税状況を調べ利用券を印刷し交付
【主な予算費目】	08保健事業費 01保健事業費 02鍼灸費
【意見や要望】 関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	年配の方々からの支持を得ている。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
申請者に補助券交付		22年度と同様。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 交付世帯数	世帯	当初より、制度周知により利用者が増加したので補正をし、H23は補正值と変わらない。	
イ 交付枚数	枚		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 合志市民（国保加入者）		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
		→ ア 国保世帯	世帯
		イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 鍼灸をして患部の改善を図る		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
		→ ア 鍼灸券使用枚数	枚
		イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 使用枚数がそのまま鍼灸利用者になるから。前年度より使用者が若干の伸びがあり、その伸びの見込みである。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	世帯	48	47	50	119	120	120	120	
	イ	枚	2,450	2,810	2,600	5,112	5,200	5,200	5,200	
② 対象指標	ア	世帯	7,284	7,257	7,200	7,332	7,330	7,330	7,330	
	イ									
③ 成果指標	ア	枚	575	697	1,560	1,313	1,320	1,320	1,320	
	イ									
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	575	697	660	1,313	1,560	1,560	
	人件 費	(A) 事業費計	千円	575	697	660	1,313	1,560	1,560	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正職員従事人数	人	3	3	3	5	5	5	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	80	80	70	80	70	70	70	0
		(B)人件費計	千円	320	318	278	329	288	288	
			千円	895	1,015	938	1,642	1,848	1,848	

事務事業名	鍼灸費助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	---------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 現時点で目標を達成しており、鍼灸券の周知が浸透してきていると考えられる。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 平成22年度はすでに目標達成しており、23年度達成は難しいものではないと考えられる。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 整形外科の治療で効果がみとめられないものについては、一定の成果がはかれるものと思われる。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 鍼灸の補助という独立した事業であり、類似した事業は無い。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 制度として周知されており、利用者は増えているので削減は困難である。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 この事業は労力がそれほどかからない	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 国保世帯すべてを対象としているので公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 市で国保の資格を確認することから、個人情報（滞納等）の取扱いの点で困難であると考えられる。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

申請を増やすことによって、医療費の抑制につながっていかなければならない。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 現時点では問題はないと考えられるので、後は利用者を増やすことにより合志市国保の医療負担が軽減されることが望まれる。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								